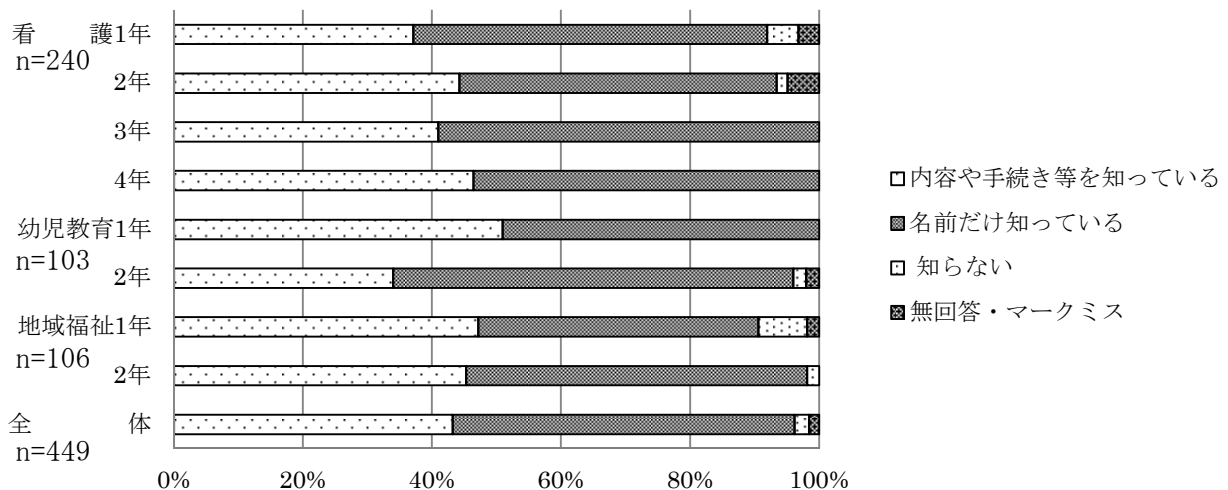


## クーリングオフ制度の認知

全体の 43.2%の学生がクーリングオフの手続きや内容について知っていた。名前だけ知っている学生は 53.0%であった。名前だけの学生が半数以上であるため、今後もクーリングオフ制度の内容について講演等で周知する必要がある。

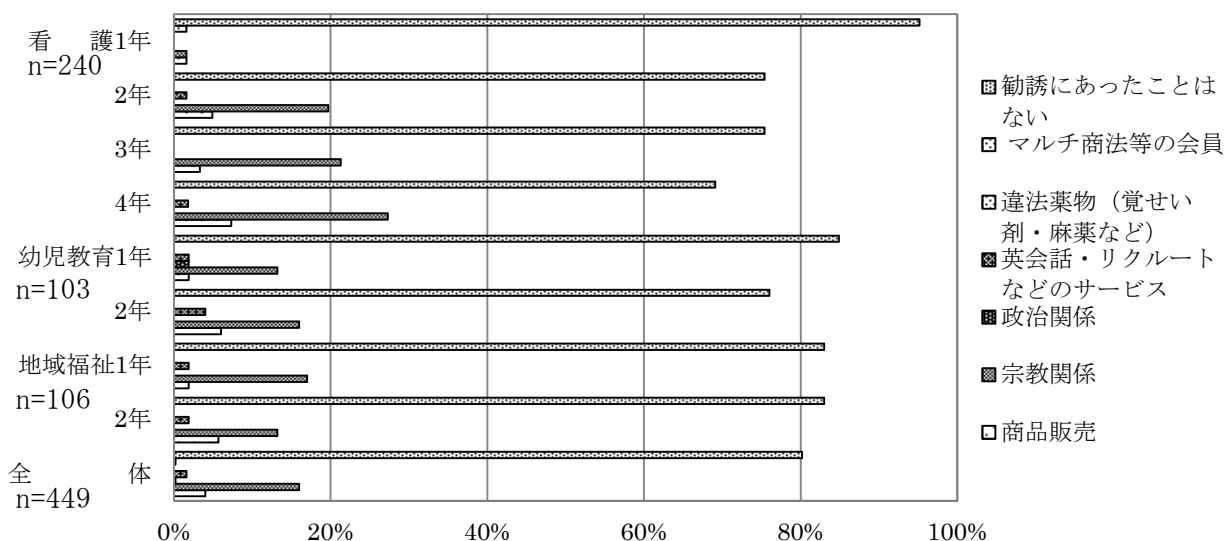
E-28 クーリングオフ制度の認知



## 強引な勧誘を受けた経験(複数回答)

前回の調査では宗教関係の勧誘は 41.9%と多かったが、今回は全体の 16.0%の学生が強引な宗教関係の勧誘を受けたと答えており、前回より減少傾向だった。また、4.0%の学生が何らかの商品販売の勧誘を受けたと答えていた。直接的な被害を避けるためにも、今後も勧誘された際の断り方等の学生への指導が必要である。

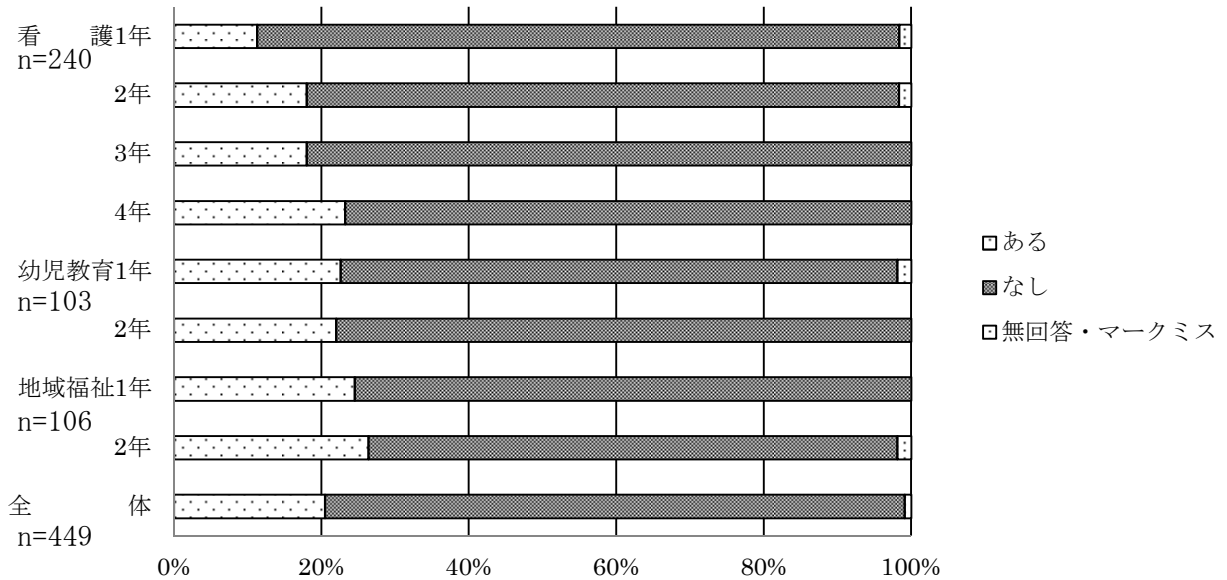
E-29 強引な勧誘を受けた経験 (複数回答)



### いたずら電話被害の有無

全体の 78.6%の学生がいたずら電話被害はないと答えたが、20.5%の学生はいたずら電話被害にあったと答えていた。前回の調査では、全体の40.5%がいたずら電話の被害にあったが、減少傾向にあった。

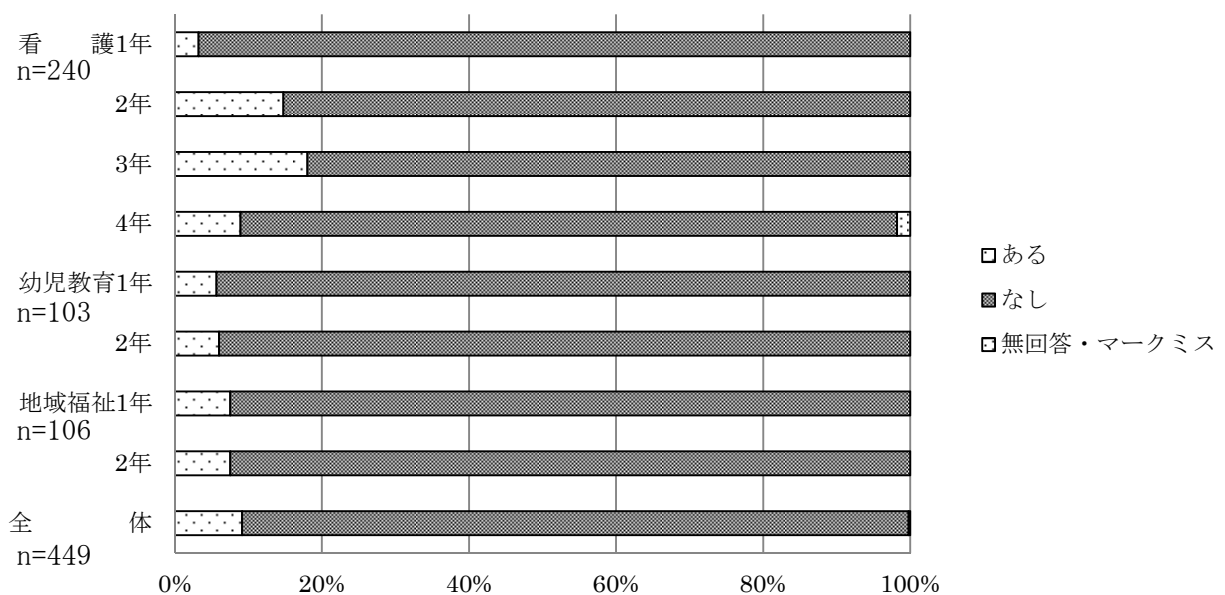
E-30 いたずら電話被害の有無



### ストーカー被害・つきまとい行為

全体の 9.1%の学生がストーカー被害・つきまとい被害にあったと答えている。直接的な被害に発展しないためにも、ストーカー被害やつきまとい行為があった場合は、夜間一人で行動しないことや困ったときには大学や警察に相談することなど周知する必要がある。

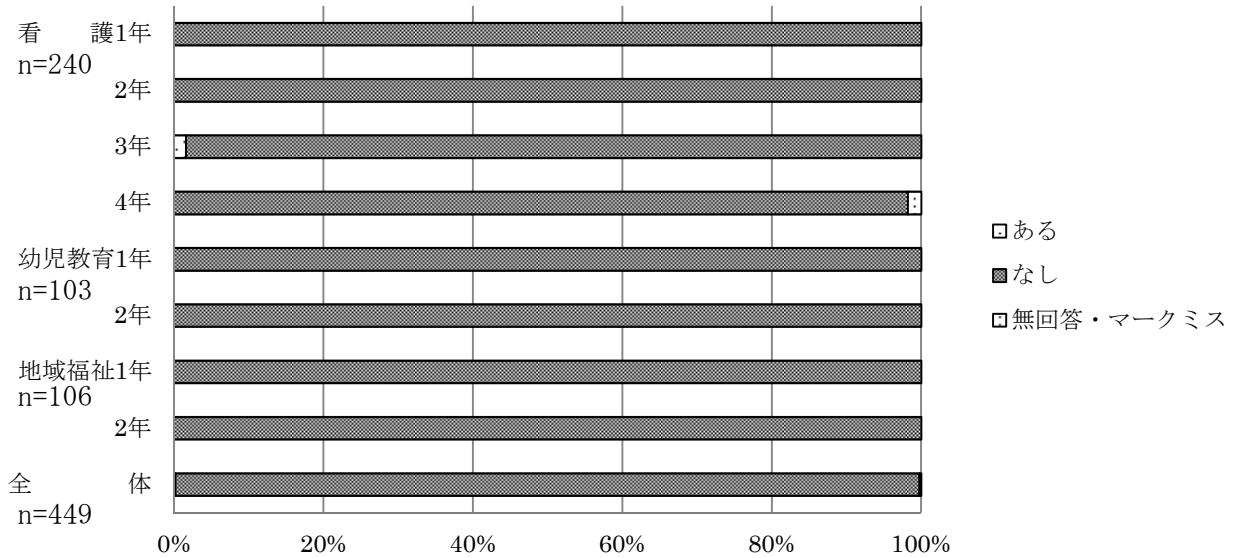
E-31 ストーカー被害・つきまとい行為



### 麻薬(覚醒剤・違法ドラッグ・シンナー・その他薬物を含む)の不正使用

全体の 99.6%は麻薬(覚醒剤・違法ドラッグ・シンナー・その他薬物を含む)の不正使用はないと答えていた。しかし 0.2%の学生が使用したと答えていた。ほとんどの学生が使用していないが数名でも使用していたことがあることから、薬物乱用に関する知識・被害の指導の必要性がある。

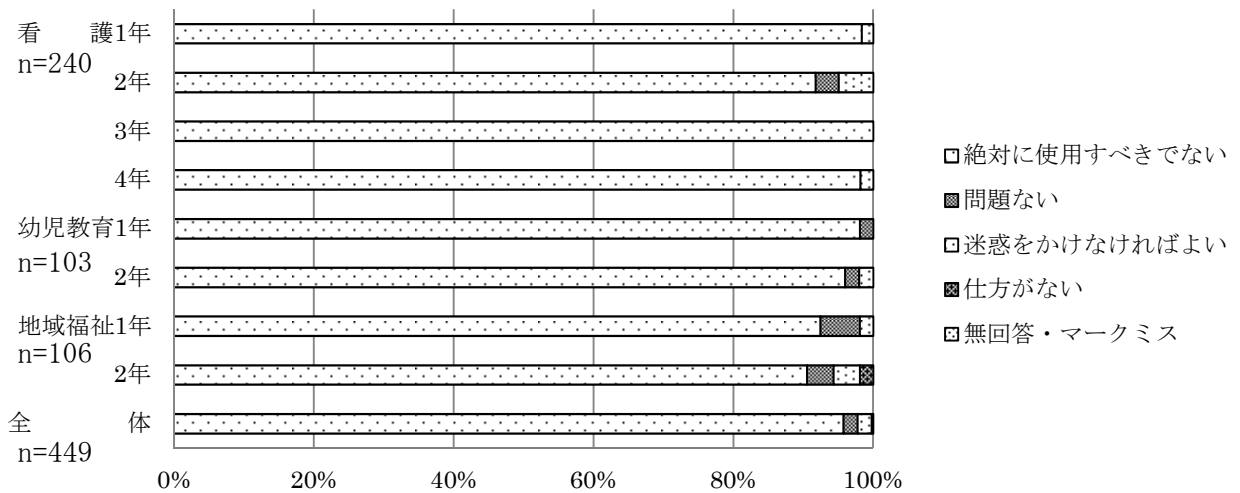
E-32 麻薬の不正使用



### 麻薬等使用への意識

全体の 95.8%の学生が絶対に使用すべきではないと答えていたが、2.0%の学生が問題ない、2.0%の学生が迷惑をかけなければよいと答えていた。ほとんどの学生が薬物乱用について使用すべきではないと答えたものの、問題ないや仕方ないと答えた学生もおり、麻薬使用は犯罪であることを認識できるように対策が必要である。

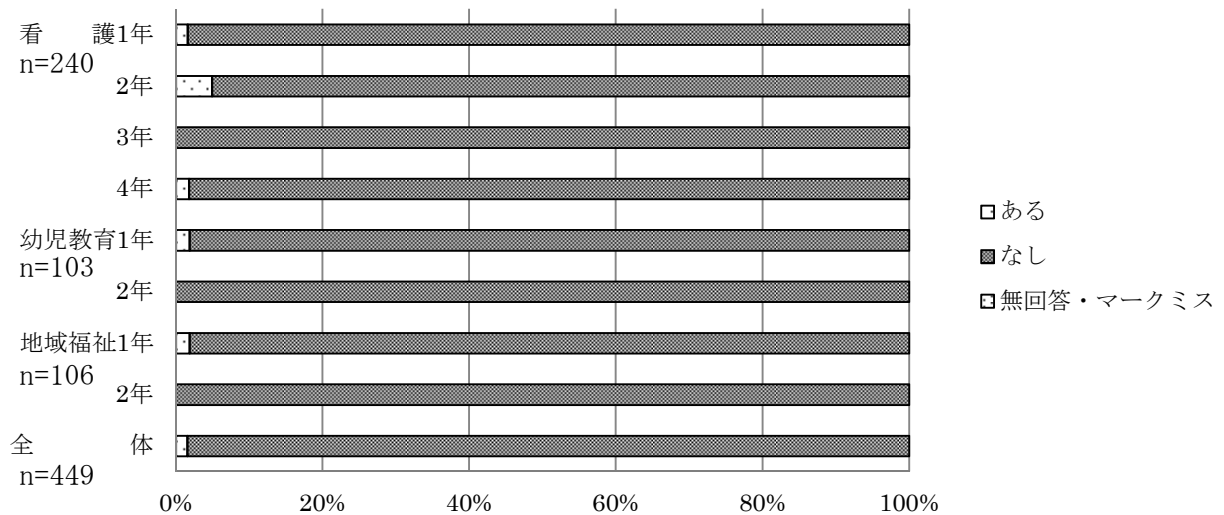
E-33 麻薬等使用への意識



### 暴力行為・強盗・傷害の被害

全体の 98.4%の学生は、暴力行為・強盗・傷害の被害を受けたことはないと答えたが、1.6%の学生が被害を受けていたと答えた。全体としての割合は低いものの被害を受けた学生がいるため、予防策を講じる必要がある。

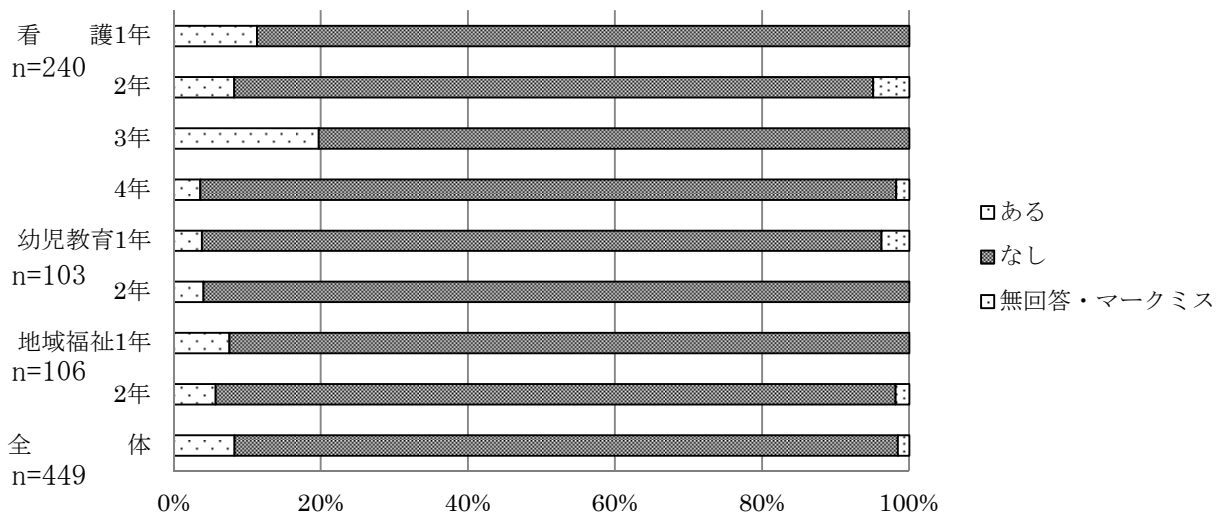
E-34 暴力行為・強盗・傷害の被害



### 窃盗の被害

全体の 90.2%の学生が窃盗の被害を受けたことはないと答えたが、8.2%の学生は被害を受けていたと答えた。窃盗の被害を 8.2%の学生が受けており、貴重品の自己管理の徹底が必要である。

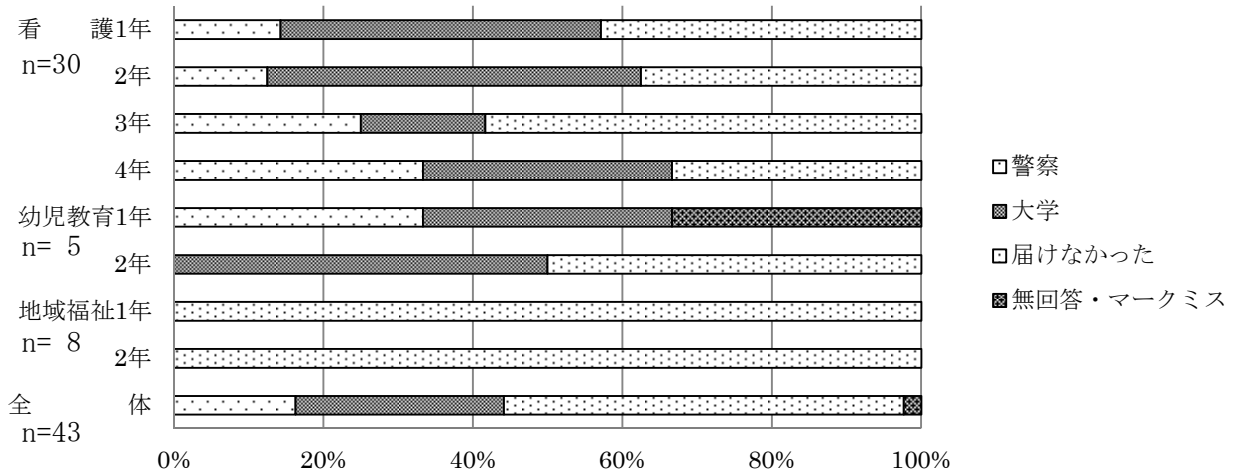
E-35 窃盗の被害



## 被害の届け出先

全体の 27.9%の学生が大学に被害を届け、16.3%は警察に届けていた。しかし、53.5%は大学・警察のどちらにも届けなかった。窃盗被害の対策を講じるためにも警察と大学へ届けるよう指導が必要である。

E-36 被害の届け出先



## ハラスメント被害(大学関連)の有無

全体の 81.7%の学生はハラスメント被害を受けた(感じた)ことはないと答えていたが、3.6%の学生は受けた(感じた)ことがあると答えていた。教員の言動について今後も各教員で注意して学生とかかわる必要がある。

E-37 ハラスメント被害の有無

